

## 株主インフォメーション STOCK INFORMATION

## 株主優待のご案内

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

## ● 株主優待の内容

対象株主	優待の内容
毎年基準日(3月31日)現在で当社株式1単元(1,000株)以上所有の株主様	5,000円相当の当社製品贈呈
	贈呈時期
	毎年7月予定

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	3月31日
期末配当金基準日	3月31日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人	
および特別口座の	三菱UFJ信託銀行株式会社
口座管理機関	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

WEBサイト  
のご案内

ニュース&トピックスのトップページから会社案内、IR情報、製品紹介のほか、キョクヨーグループの最新情報を掲載しています。また、皆様のご意見や質問をお受けする『お問い合わせ入力フォーム』も用意しておりますので、是非ご活用ください。


<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

検索



## BUSINESS REPORT

第89期 報告書

2011年4月1日 ▶ 2012年3月31日

いつも となりに おいしいキョクヨー



株式会社 極 洋

〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号



### 企業理念

人間尊重を経営の基本に、  
健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに  
成長することを目指します。

### ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第89期(2012年3月期)報告書をお届け致します。

当期(2012年3月期)、キョクヨーグループは、4月1日に発足した代表取締役会長CEO福井清計、代表取締役社長多田久樹の新体制のもと、中期経営計画「キョクヨーグループチャレンジ2012」の最終年度として、積極的な事業運営に努め、さらに、海外まき網事業における海外合弁会社の設立や国内における本鮪の完全養殖実現に向けた業務提携を進めるなど将来を見据えた施策を実施いたしました。

さて、当社は今年創立75周年を迎えます。4月からは「キョクヨーグループの優位性を強化、拡充し、安心・安全で競争力のある商品の提供により、グループ企業価値の最大化を実現すること」を基本目標に、新中期経営計画「パワーアップキョクヨー2015」をスタートさせました。「加工戦略」「グローバル戦略」を更に深化させ、当社を含むグループ企業27社間の相乗効果を最大限に発揮するべく「シナジー戦略」を新たに加えた3つの戦略を基本方針としております。

75周年を迎えるにあたり、キョクヨーグループは、「チャレンジ」から「パワーアップ」へとステージを進めますが、今後ともチャレンジ精神を持ち続けながら、企業力アップを目指し、目標達成に向けて取り組んで参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月



代表取締役会長CEO  
福井 清計

代表取締役社長  
多田 久樹

## 「キョクヨーグループ チャレンジ 2012」から 「パワーアップ キョクヨー 2015」へ向けて

### 当期(2012年3月期)の概況

当期の我が国経済は、東日本大震災の影響が色濃く残り、加えて主に欧州の財政危機、米国の景気低迷に起因する円高の定着、デフレ下における資源価格高の進行などにより停滞し、不透明感が漂う状況が続きました。

水産・食品業界においても、海外における魚食志向の高まりや新興国の経済成長などの影響により水産物全般の買付価格が上昇する一方、国内においては雇用所得環境の悪化から消費者の生活防衛意識が強まり、節約志向、低価格志向が続く展開となりました。

こうしたなか当社グループは、震災によるダメージから回復することを第一に、安心・安全な食品の提供、事業基盤の強化と収益の確保を重視した積極的かつ効率的な運営に努めて参りました。その結果、売上高は前期を上回る成果を収めることができましたが、経常利益は冷蔵運搬船事業の不振もあり残念ながら前期を下回りました。

水産商事セグメントでは、上半期の水産物全般の市況は堅調に推移しましたが、下半期以降、一転して一部魚種で急激な市況変動により国内販売環境が悪化するなど、収益動向に陰りがでるなか、加工原料を積極的に取り扱い、定塩さけ製品やかに・えびの剥き身など付加価値製品の拡販に努めました。

冷凍食品セグメントにおける水産冷凍食品では、大手回転寿司チェーンや量販店向けの拡販に注力した結果、売上高は伸びましたが、原料価格の高騰、販売競争激化の影響は避けられませんでした。調理冷凍食品では、消費者の外出から中食、内食傾向への強まりを背景に、量販店やコンビニ向けに

水産フライ類やえび加工品及びかに風味かまぼこなどの拡販が進みました。

常温食品セグメントでは、震災により一部の国内協力工場の生産設備が被災し、水産缶詰の供給が減少しましたが、ツナ缶などの輸入缶詰や畜肉缶詰、海鮮珍味類などを大手コンビニルートや量販店に向けての拡販及び新規商材の開発に努め、前期並の売上高を確保することができました。

物流サービスセグメントでは、冷蔵倉庫事業は順調に推移しましたが、冷蔵運搬船事業はコンテナ船との競合による運賃市況の下落、天候不順による主力貨物であるバナナの生産量の落ち込み、欧州の経済危機などによる購買力の低下に、急激な円高や燃油価格高騰などの要因も加わり、損失計上のやむなきに至りました。

鯉・鮪事業セグメントにおける海外まき網事業は、上半期における水揚げ量の減少から売上は前期に及ばなかったものの、堅調な市況と修繕費などの経費削減により、利益は前期を上回りました。本鮪の養殖事業は、キョクヨーマリンファーム(株)で育てた「本鮪の極」の品質に対する評価も高く、販売は順調に進みました。また設立から2年を経過するキョクヨーマリン愛媛(株)においても、まぐろは計画通りの成育状況にあり、今年初出荷を予定しております。鯉・鮪加工及び販売事業は引き続き国内外からの原料調達ルートの拡充と、生鮮やチルドでの供給を含めた加工体制の強化、大手回転寿司チェーンや量販店などへの拡販に努めました。また鯉・鮪資源アクセスを強化するために、島嶼国との合弁事業や日本配合飼料(株)との業務提携に着手しました。

中期経営計画  
「キョクヨーグループチャレンジ2012」の総括

中期経営計画「キョクヨーグループチャレンジ2012」では、当社グループの有する独自性・優位性を一層強化し、既存事業の収益安定化を確固たるものとするとともに、成長の期待される関連分野への積極的姿勢を明確にしました。

国内ではM&Aによるグループ化や養殖事業会社の立ち上げなど計4社を、海外では資源アクセスの確保のため2社を新たに設立し、事業規模を拡大した結果、最終年度売上高は所期の計画を上回りました。

一方、日本国内のデフレ経済が長期化するなか原料仕入価格の上昇などにより水産商事事業、冷凍食品事業の利益が目標に及ばなかったこと、海外まき網事業における漁獲減、冷蔵運搬船事業の不振などにより利益は目標を下回りました。また自己資本利益率(ROE)、自己資本比率ともに目標には届きませんでした。

「キョクヨーグループチャレンジ2012」最終年度(2012年3月期)実績と計画比

	計画	実績	計画比
売上高	1,770億円	1,818億円	48億円
営業利益	42.5億円	16.3億円	△26.2億円
経常利益	40.0億円	17.0億円	△23.0億円
自己資本利益率(ROE)	10%	2.5%	△7.5ポイント
自己資本比率	30%	20.0%	△10.0ポイント

新中期経営計画「パワーアップ キョクヨー 2015」  
の基本方針と第90期(2013年3月期)の計画目標

新中期経営計画「パワーアップ キョクヨー 2015」は「キョクヨーグループの優位性を強化、拡充し、安心・安全で競争力のある商品の提供により、グループ企業価値の最大化を実現する」方針のもと基本目標を定めました。

最終年度(2015年3月期)	数値目標
売上高	2,000億円
営業利益	50億円
ROE(自己資本当期純利益率)	10%
自己資本比率	30%
D/Eレシオ(有利子負債資本倍率)	2倍以内

新中期経営計画においては、『加工戦略』、『グローバル戦略』を更に深化させると共に、拡大したグループ会社間の相乗効果を最大限に発揮する為、新たに『シナジー戦略』を加え、目標の達成に向けて取り組んで参ります。

さらに、財務体質の強化を図り、自己資本比率の向上、キャッシュフローの改善、有利子負債やリスク資産の削減に取り組むと共に、環境に配慮した経営の徹底、災害時における事業継続計画(BCP)の策定等を通じて企業価値の向上に努めて参ります。

水産商事事業においては、これまで培ってきた水産物についての豊富な経験と国内外サプライヤーとの持続的な関係強化によ

り質の高い水産物の安定的な供給と、お客様のニーズを的確に捉えた高付加価値製品の取扱いを高めて参ります。更に欧米・東南アジアの海外現地法人のネットワーク化により三国間貿易の取り組みを強化し、海外マーケットの深耕を図るなどして、資源調達力及びグループ内の協業体制の強化を図ります。

冷凍食品事業においては、市販冷食分野への進出を目指し、生活者の皆様の目線に立って新たなブランド作りを進めるとともに、マーケット対応商品の開発や生産技術のレベルアップを図り、事業展開のフィールドを広げて参ります。また当社の強みである寿司関連事業の強化を図る為にアジア等での生産拠点の開拓を進め、海外展開を進めている取引先との一層の連携を図って参ります。

同時に、海外を含む新たな販売チャンネルを広げるマーケット戦略を進めて参ります。

生産部門については、国内直系工場の再構築と海外生産拠点の分散化を図り、より安定的な供給体制を構築して参ります。

常温食品事業における缶詰事業においては、国内外で加工部門の基盤の安定化を目指します。国内では主要協力工場との更なる連携強化、海外では原料調達や生産拠点をグローバルに展開することにより競争力のある商品開発を進め、価格対応力を強化します。更に海外まき網事業との協業による調達から販売までの一貫した取り組みを行い、安心・安全な商品の供給を進めて参ります。

海鮮珍味など加工販売においては、当社の強みを生かした幅

広い製品アイテムの拡充を図って参ります。

またネット販売の更なる充実などにより販売チャンネルの拡大につなげて参ります。

鯉・鮪事業における加工販売事業においては、高付加価値商品の開発に努めるとともに、国内及び海外生産拠点の整備拡充を進めて参ります。

海外まき網事業においては、鯉鮪資源アクセスを重視し、島嶼国との連携により事業拠点を広げて参ります。またグループ所有船舶による高品質なカツオの漁獲生産を行って参ります。

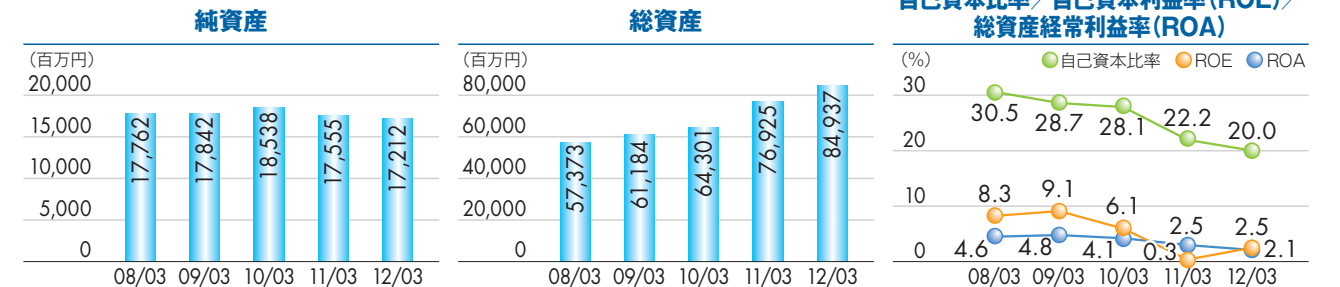
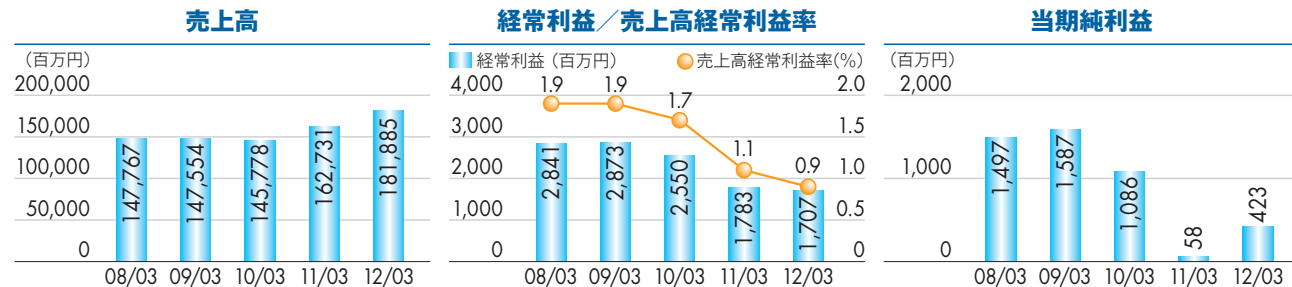
養殖事業においては、本船出荷1,000トン体制を目標に事業場の拡大を進め、他社との協業による完全養殖事業を軌道に乗せるべく、ノウハウの蓄積に努め、獲る漁業とつくる漁業を両輪とした、鯉・鮪事業の新たな展開を進めて参ります。

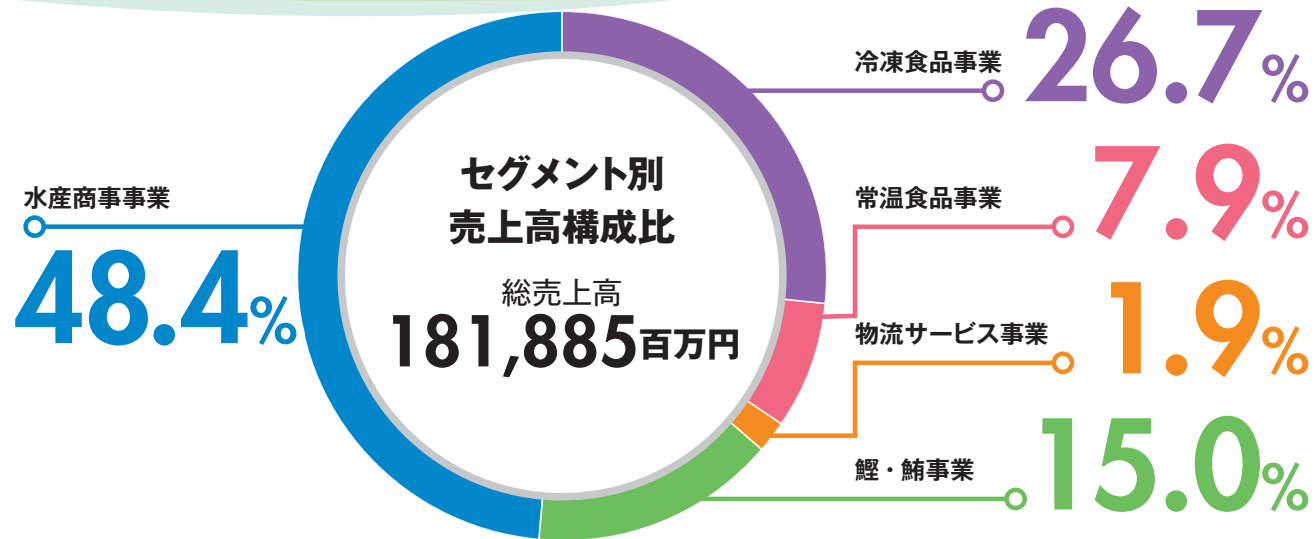
物流サービス事業における冷蔵倉庫事業は、積極的な集荷とサービスの向上、業務品質の改善及び増庫対策を進め、安定収益の確保を目指して参ります。

冷蔵運搬船事業は、市場規模に合った船隊のスリム化を進め、収益の確保に努めて参ります。

以上により、次期の連結業績は中期経営計画「パワーアップ キョクヨー2015」の初年度として、連結売上高1,850億円、営業利益32億円、経常利益31億円、当期純利益18億円を見込んでおります。

主な連結財務指標





水産商事事業

- 売上高 **88,030**百万円
- 営業利益 **1,371**百万円

キョクヨーグループは水産会社として培ってきた経験を生かし、国内外の支社、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、グローバルネットワークを活用し、世界の海から調達した水産物を、素材としての供給のみならず、様々なニーズにあった製品に加工して提供しています。

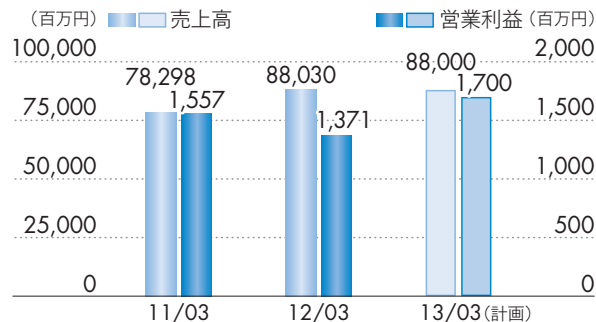
また、三国間貿易も積極的に行い、水産物の有効活用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化にも対応しています。



中国の加工工場

定塩知床サーモンフィレ(甘口)

世界自然遺産・北海道知床半島で漁獲された天然サーモンをチルド保存で極洋食品(株)八戸工場に搬送して加工しました。極洋独自の熟成加工で鮮度と身色にこだわりました。



PRODUCT INFORMATION

冷凍食品事業

- 売上高 **48,640**百万円
- 営業利益 **546**百万円

冷凍食品事業は水産冷凍食品・調理冷凍食品の2つの分野で構成され、国内外の関係会社工場や協力工場で製造された製品を、主に外食産業、量販店などを通じ、お客様へお届けしています。

水産冷凍食品の主力製品は、「寿司種製品」と焼魚・煮魚などの「加熱用加工品」です。「寿司種製品」はタイの合弁会社において、最先端の衛生的な設備のもと、素材本来の味と食感を生かすことにこだわりをもって製造されています。また、当社独自開発の冷凍寿司は、欧米諸国などに輸出されています。

調理冷凍食品は「えびフリッター」、「クリーミーコロッケ」などのフライ類や、かに風味かまぼこ「オーシャンキング」をはじめ、畜肉製品、冷凍野菜など、お客様のニーズに合わせて開発製造をしています。



KUE社での寿司エビ加工の様子

PRODUCT INFORMATION

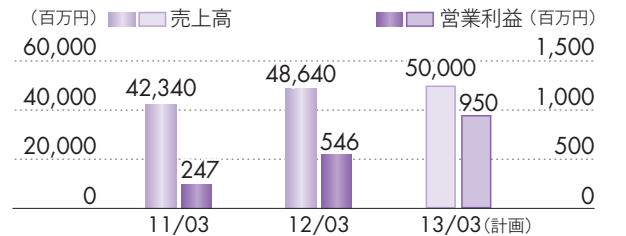
【水産冷凍食品】寿司種製品

寿司種はタイの合弁会社を生産拠点の一つとし、えび、いか、サーモンなど新鮮な原料を使って、そのまま流水・自然解凍するだけで本格的な寿司種になります。また、豊富な商品群は彩りもよく、さまざまな商品を組み合わせただけで豪華な寿司盛を演出できます。



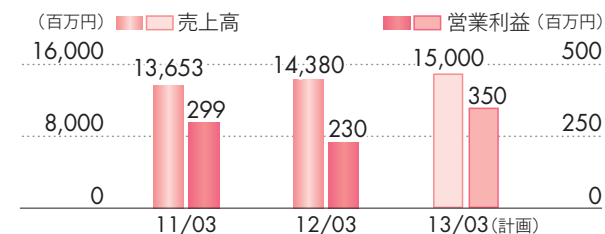
【調理冷凍食品】オーシャンキングの極

高品質のすり身を使用し、かに脚肉をイメージして仕上げました。ジューシーな味わいと繊維感のあるオーシャンキングです。5本入りトレーパックや天ぷら用もあります。



常温食品事業

- 売上高 **14,380**百万円
- 営業利益 **230**百万円



PRODUCT INFORMATION

アラスカ産 紅鮭水煮(獲れたてフレッシュパック)

原材料は紅鮭と塩だけ、新鮮な紅鮭をそのまま缶に詰めました。



常温食品事業はかつお・さけ・かになどの缶詰やスイーツコーンなどのリカルトパック製品、「グルコサミン」などの健康食品、ジョッキの海鮮珍味など多岐に渡る製品ラインナップで、消費者の皆様へ美味さとお届けしています。



(株)ジョッキ 埼玉工場

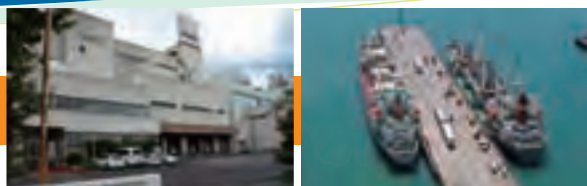


健康食品

物流サービス事業

● 売上高 **3,524**百万円  
● 営業利益 **△850**百万円

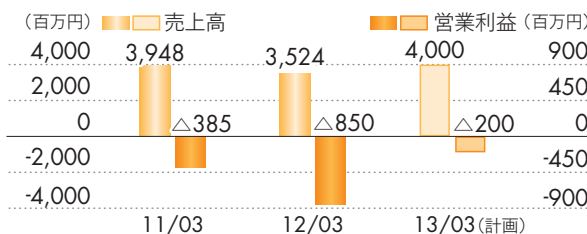
物流サービス事業においては、冷蔵倉庫事業と冷蔵運搬船事業を行っておりますが、冷運事業におきましては厳しい環境が続いており、船隊編成をはじめ、より効率的な運営体制に向けて見直しを進めてまいります。



キョクヨー秋津冷蔵(株)福岡事業所



冷蔵運搬船



PRODUCT INFORMATION

鯉・鮪事業

● 売上高 **27,231**百万円  
● 営業利益 **634**百万円

鯉・鮪事業では長年積み上げてきたノウハウを最大限に生かして、漁撈・養殖から買付、加工、販売までの事業を一貫して行っております。

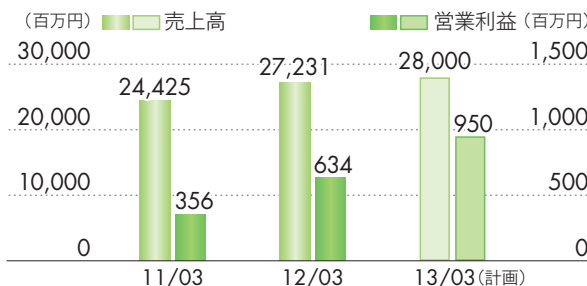
海外まき網事業では、極洋水産(株)所属の海外まき網船「わかば丸」が、良質のカツオを求めて順調に操業を続けております。

まぐろ養殖事業では、まぐろ資源の確保に向け高知県宿毛市のキョクヨーマリンファーム(株)、愛媛県愛南町のキョクヨーマリン愛媛(株)の2箇所本鮪の養殖事業を行っています。そのうちキョクヨーマリン愛媛(株)は、今秋の初出荷に向けた準備を着々と進めています。

自社で漁獲・養殖し、また、徹底した品質へのこだわりを持ちながら世界中で買付けしたまぐろやかかつおは、当社グループ会社をはじめ国内外の協力工場で、寿司種・刺身・ネギトロなど様々な形態に加工して市場に出荷されます。

本鮪の極

キョクヨーマリンファーム(株)の養殖本鮪「本鮪の極」は、高知県・宿毛の穏やかできれいな海ですくすと育ちました。極洋独自に構築した養殖技術を活かした自信作で、取引先から高い評価を受けています。



極洋フレッシュ(株)



第七わかば丸



東日本大震災 被災地支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0という国内観測史上最大級の巨大地震であり、東北・関東地方の太平洋側を中心に甚大な被害をもたらしました。改めて、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

このたびの震災に際し、当社グループ一丸となって様々な形で支援活動を行いました。

《被災地支援活動》

- 日本赤十字社他を通じ総額1,200万円の義援金を被災地に寄付
- 缶詰等の義援物資を被災地に提供
- 2011年中元・歳暮カタログ販売の売上金の一部を、義援金として日本赤十字社を通じ被災地へ寄付
- 極洋水産(株)所属の海外まき網船等による被災地への救援物資搬送(上記写真)
- マグロ養殖業者および大手量販店との共同で被災地にまぐろ丼を無償提供



日本カヌー連盟主催のカヌー競技大会に協賛

「自然との共生」「水資源の大切さ」を社会に訴えていく環境保全活動の一環として、(社)日本カヌー連盟が主催する「第34回 NHK杯全日本カヌースラローム競技大会」(2011年4月)に協賛しました。

また、16年前より山梨県山中湖において夏に開校しているカヌースクールも、これまでに延べ1000名近い参加者を数えています。



水産資源の有効利用

当社は、限られた水産資源の有効かつ持続可能な利用を心がけ、製品の加工課程で発生した派生物を新たに加工度を高めて高付加価値製品として開発し、大切な資源を無駄なく利用することに努めています。鯉・鮪事業にて扱っている「まぐろステーキ」はその一例です。



まぐろステーキ

社会・環境報告書2011発刊

2011年9月、「極洋グループ 社会・環境報告書2011」を発行しました。

これは、2001年12月以来、当社グループが取り組んでいる環境保全活動の成果や社会活動の報告を通して当社グループ内外とのコミュニケーションを密にする役割を担っており、今回5回目の発行となりました。

今後とも、当社グループ環境経営の更なる充実を図り、社会から信頼と期待に応えられるよう努力を続けて参ります。



当報告書の内容は当社ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kyokuyo.co.jp/environment/>

『日本さかな検定』(愛称:ととけん)に協賛

2011年5月に東京・大阪・鳥取で実施された『第2回 日本さかな検定』(主催:(社)日本さかな検定協会)に協賛しました。

これは、検定という形で魚への関心や知識を深めてもらうことで、日本の伝統ある魚食文化の復活・継承を目的としています。水産物を中心とした総合食品会社である当社も同趣旨に賛同し、2010年の第1回から協賛を実施しています。



**NEWS**  
**スモークサーモンが  
 3年連続モンドセレクション金賞を受賞**

2011年の第50回モンドセレクションにて、当社製品「スモークサーモン」のスライスおよびカットの2品が3年連続で金賞を受賞し、併せて国際優秀品質賞を受賞しました。

3年連続で金賞を受賞したことで、改めて品質にこだわる当社製品の付加価値の高さをアピールできました。

また、同時出品のジョッキ製品「ドライスモークサーモン〜燻〜」が銀賞を受賞しました。



モンドセレクション3年連続・国際優秀品質賞

**TOPIC**  
**クロマグロ等の養殖事業における  
 業務提携契約締結**

(株)極洋・キョクヨーマリンファーム(株)・キョクヨーマリン愛媛(株)は、日本配合飼料(株)とその連結子会社である南洋漁業(株)との間で、クロマグロおよびその他水産物の種苗生産、養殖、加工・販売の分野における包括的な業務提携を行うことで合意し、これに関する契約を締結しました。



日本配合飼料・人口孵化させたクロマグロ稚魚

**TOPIC**  
**女性中心による商品開発プロジェクトチーム**

女性中心の商品開発プロジェクトチームは、女性の感性を重視し市場調査を通して、「極洋らしい」商品開発を目指し活動しています。2012年春の新商品として、プロジェクトチームが発案した「えびクリーム春巻」と「かにクリーム春巻」の2品は、外食店メニューに採用されました。



女子プロジェクトチーム

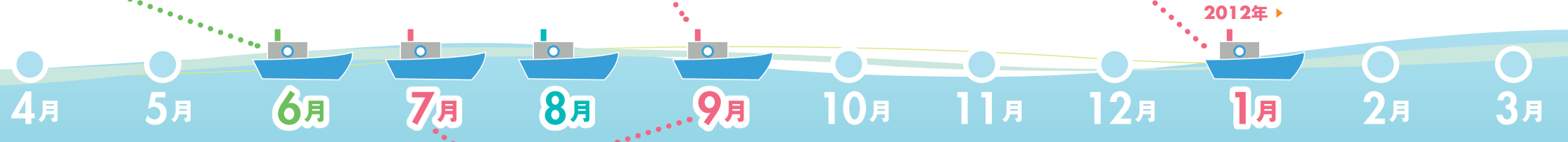


えびクリーム春巻



かにクリーム春巻

**TOPICS**  
 2011～2012



**TOPIC**  
**海外まき網事業における合併会社設立**

漁業に対する国際的な規制が強化されるなか、生物多様性の保全を維持しながら、水産資源の安定確保とその有効利用、漁業を保有する島嶼国の経済発展への貢献を目的とし、海外まき網合併事業を立ち上げました。

2011年7月に設立した極洋水産(株)とキリバス政府との合併会社「Kiribati and Kyokuyo Co.,Ltd」と、2011年9月に設立したバブアニューギニア国現地法人フラベルPNG社との合併会社「KF(PNG) Ltd.」の2社です。



KKC設立



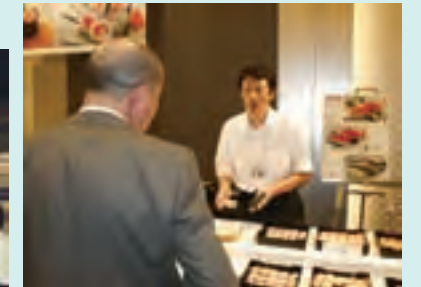
KF(PNG)社設立

**PR**  
**各種展示会に出展**

7月に開催された「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」をはじめ、国際的な展示会に相次いで出展しました。また、8月には東京支社・極洋商事(株)の合同、9月には大阪支社の展示商談会をそれぞれ開催し、PRを図りました。



ジャパン・インターナショナル・シーフードショー



東京支社・極洋商事(株)合同展示商談会

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2012年3月31日現在	前連結会計年度 2011年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	64,824	56,145
固定資産	20,113	20,779
有形固定資産	11,574	12,331
無形固定資産	730	777
投資その他の資産	7,807	7,669
資産合計	84,937	76,925
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	58,730	50,190
固定負債	8,995	9,178
負債合計	67,725	59,369
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	17,683	17,785
その他の包括利益累計額	△717	△707
少数株主持分	246	477
純資産合計	17,212	17,555
負債純資産合計	84,937	76,925

連結貸借対照表のポイント

- 流動資産**
  - 受取手形及び売掛金、たな卸資産が増加したことなどにより前期比86億円増加しました。
- 固定資産**
  - 減価償却に伴う有形固定資産の減少などにより前期比6億円減少しました。
- 流動負債**
  - 短期借入金の増加やコマーシャル・ペーパーの発行などにより前期比85億円増加しました。
- 固定負債**
  - 退職給付引当金の増加の一方、長期借入金の減少などにより前期比1億円減少しました。
- 純資産**
  - 株主資本合計、少数株主持分の減少などにより前期比3億円減少しました。

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(2011年4月1日から2012年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
前期末残高	5,664	749	12,119	△747	17,785	△742	83	△48	△707	477	17,555
当期変動額											
剰余金の配当			△525		△525						△525
当期純利益			423		423						423
自己株式の取得				△0	△0						△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						72	△21	△61	△10	△230	△241
当期変動額合計	—	—	△102	△0	△102	72	△21	△61	△10	△230	△343
当期末残高	5,664	749	12,017	△747	17,683	△669	61	△109	△717	246	17,212

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2011年4月 1日から 2012年3月31日まで	前連結会計年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで
売上高	181,885	162,731
売上原価	162,411	144,085
売上総利益	19,474	18,645
販売費及び一般管理費	17,838	17,056
営業利益	1,636	1,588
営業外収益	574	631
営業外費用	503	436
経常利益	1,707	1,783
特別利益	153	42
特別損失	19	970
税金等調整前当期純利益	1,842	854
法人税、住民税及び事業税	1,446	1,195
法人税等調整額	△62	△396
少数株主利益又は損失(△)	35	△2
当期純利益	423	58

連結損益計算書のポイント

- 売上高** (前期比191億円増加)
  - 水産商事事業、冷凍食品事業、常温食品事業、鯉・鮪事業では前期実績を上回りましたが、物流サービス事業で前期を下回り、全体では前期比11.8%増となりました。
- 営業利益** (前期比0.4億円増加)
  - 冷凍食品事業、鯉・鮪事業では前期を上回りましたが、水産商事事業、常温食品事業、物流サービス事業で前期を下回り、全体では3.0%増となりました。
  - 営業利益率は0.9%と前期(1.0%)を下回りました。
- 経常利益** (前期比0.7億円減少)
  - 前期比4.2%減となりました。
  - 経常利益率は0.9%と前期(1.1%)を下回りました。
- 当期純利益** (前期比3億円増加)
  - 前期比626.4%増となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2011年4月 1日から 2012年3月31日まで	前連結会計年度 2010年4月 1日から 2011年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△5,297	△5,079
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,006	△3,077
財務活動による キャッシュ・フロー	6,434	8,837
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△14	△29
現金及び現金同等物の 増減額	116	650
現金及び現金同等物の 期首残高	3,322	2,672
現金及び現金同等物の 期末残高	3,438	3,322

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フロー**
  - 売上債権、たな卸資産の増加などにより52億円の支出となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー**
  - 固定資産の取得などにより10億円の支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー**
  - 短期借入金の増加やコマーシャル・ペーパーの発行などにより64億円の収入となりました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当事業年度 2012年3月31日現在	前事業年度 2011年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	55,446	47,903
固定資産	15,667	14,607
有形固定資産	4,462	4,354
無形固定資産	324	346
投資その他の資産	10,881	9,907
資産合計	71,113	62,511
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	51,963	43,923
固定負債	5,328	4,951
負債合計	57,291	48,875
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	14,556	14,408
評価・換算差額等	△733	△773
純資産合計	13,822	13,635
負債純資産合計	71,113	62,511

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当事業年度 2011年4月1日から 2012年3月31日まで	前事業年度 2010年4月1日から 2011年3月31日まで
売上高	165,737	148,009
売上原価	148,987	131,437
売上総利益	16,750	16,572
販売費及び一般管理費	14,941	14,492
営業利益	1,809	2,080
営業外収益	391	381
営業外費用	319	274
経常利益	1,881	2,187
特別利益	0	0
特別損失	202	899
税引前当期純利益	1,679	1,288
法人税、住民税 及び事業税	1,088	994
法人税等調整額	△81	△412
当期純利益	672	706

株主資本等変動計算書

当事業年度(2011年4月1日から2012年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本								評価・換算差額等			純資産 合計		
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益		評価・換算 差額等合計	
		資本剰余金	その他資 本剰余金	資本剰余 金合計	利益準備金	その他利益 剰余金 別途積立金	繰越利益剰余 金							利益剰余 金合計
前期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	6,508	8,742	△747	14,408	△856	83	△773	13,635
当期変動額														
剰余金の配当							△525	△525		△525				△525
当期純利益							672	672		672				672
自己株式の取得									△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											61	△21	39	39
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	147	147	△0	147	61	△21	39	186
当期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	6,656	8,889	△747	14,556	△795	61	△733	13,822

会社概要

2012年3月31日現在

社名	株式会社 極洋
英文社名	KYOKUYO CO., LTD.
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
設立	1937年9月3日
資本金	56億6千4百万円
主要な事業内容	水産物の輸出入・国内買付販売、 加工食品及び冷凍食品の製造販売
従業員数	2,460名(連結) 534名(個別)
連結対象会社数	26社
役員	代表取締役会長CEO 福井清計 代表取締役社長 多田久樹 専務取締役 門田憲一 専務取締役 今井賢司 常務取締役 須藤時廣 常務取締役 上居隆 常務取締役 村上吉男 取締役 保坂正美 取締役 松行健一 取締役 雲津雅行 常勤監査役 細川高稔 常勤監査役 中山昌生 監査役 久保光太郎 監査役 荒砥誠

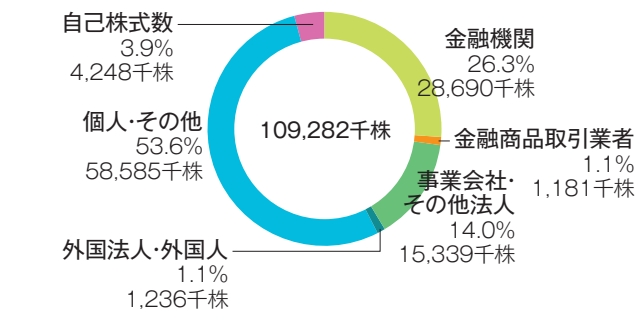
株式の概況

2012年3月31日現在

発行可能株式総数	437,000,000株
発行済株式の総数	109,282,837株
株主数	25,477名
大株主	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井住友海上火災保険株式会社	5,701	5.21
株式会社りそな銀行	5,234	4.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,121	4.68
農林中央金庫	4,450	4.07
東洋製罐株式会社	3,150	2.88
東京海上日動火災保険株式会社	2,245	2.05
カッパ・クリエイティブ株式会社	2,100	1.92
極洋秋津会	1,674	1.53
中央魚類株式会社	1,399	1.28
中央三井信託銀行株式会社	1,215	1.11

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移

